

伊丹商工会議所経営発達支援事業報告（成果・改善事項、今年度事業計画について）

（令和5年6月7日経営支援事業推進委員会資料）

目	事業の目的	「小規模企業振興基本法」と「商工会及び商工会議所による小規模事業者の支援に関する法律の一部を改正する法律」(小規模2法平成26年施行)の施行に基づき、伊丹商工会議所では小規模事業者の商品・サービスの高付加価値化や経営基盤の強化に向けて、市・金融機関・関係機関等と連携の上、小規模事業者の事業計画を作成する。そして、計画に沿った伴走型支援を行うことにより、小規模事業者の継続的な経営の安定化を図ることを目的としている。
	目的 目指すべき姿	小規模事業者の中で、伴走型支援を必要とする事業者を、以下に掲げる9の事業と支援スキームにより、事業者が抱える課題・ニーズを様々な角度から掘り起こし、支援機関等の外部専門家と連携しながら、小規模事業者の持続可能な経営計画書の作成と、その実行を伴走しながら支援していく。

令和4年度 実施結果	既存事業者支援先数89 創業支援先数27 各種補助金等の相談機会が増え、その申請支援を実施した事で事業計画策定件数については達成。今後は事業計画の実現に向けた効果的な実行支援が課題。 昨年度は全般的にイベントが再開に動き、本事業についても計画通り実行できたものもあったが、一部対応が遅れたものがあった。次年度は計画通りの実行を目指して運営する。
令和5年度 実施目標	既存事業所支援先数100 創業支援先数20 ポストコロナの経営環境を的確に捉え経営発達支援計画に基づき既存小規模事業者の持続化と創業者の支援に取り組む。国・行政の施策情報を提供し、持続化を図る事業計画策定支援とその実施支援を市場情報評価ナビ(商圏レポートMieNa/ミーナ)・経営支援システムBIZミルを活用して、専門家と伴走型で支援していく。

事業名	概要	項目	目標値					実績値					成果・改善事項
			R2	R3	R4	R5	R6	R2	R3	R4	R5	R6	
1. 地域の経済動向調査に関すること	<p>①行政が公表するビッグデータの活用「RESAS」(地域経済分析システム)を活用した地域の経済動向分析、もしくは市内の人口動向を調査し、年に1回公表する。</p> <p>②管内の景気動向等について実態を把握するため、「景気動向調査」を行う。管内事業者の景気動向等について、年4回調査・分析を行う。</p>	<p>① 経済動向調査公表数</p> <p>② 景気動向調査の実施数</p>	1	1	1	1	1	0	0	0			<p>①当初計画していた地域の経済動向分析、市内の人口動向の調査公表につきましては未実施。その代替としてクラウドサービス市場情報評価ナビMieNaを導入、その活用を周知。問い合わせのあった事業者や事業計画策定の事業者15者に対して地域の市場分析や人口動向のデータを個別に提供。 今後も本クラウドサービスの利用を広く事業者へ周知し、本事業を補完。</p> <p>②景気動向調査を4回実施し、調査分析結果をホームページ、商工会議所会報に掲載。尚、通常の調査に加えて「ロシアのウクライナ侵攻による影響の程度」、「原油・原材料の高騰による価格転嫁の進捗」、「賃上げの実施について」「インボイス制度への対応状況」の調査実施。</p>
2. 経営状況の分析に関すること	セミナーの参加者、税務・金融相談、各種補助金申請者を支援先ターゲットとして経営分析を行う。定期的に経営分析セミナーを実施し、事業者に早期の自社分析を促す。	<p>① マル経融資、税務相談、各種補助金を入り口に経営分析実施数</p> <p>② 経営分析セミナー実施数</p>	60	80	100	100	100	93	80	99			<p>① 主に小規模事業者持続化補助金(4回公募)、マル経融資、創業融資・創業支援補助金(伊丹市)・起業家支援事業助成金(兵庫県)相談を入口に経営分析を実施。目標には僅か届きませんでした。今年度も引き続きこれらの施策を入り口に実施。</p> <p>②伴走型小規模事業者支援推進事業の中でセミナーを実施。参加者延10者。今年度もこの取り組みを実施する予定。</p>
3. 事業計画策定支援に関すること	自社の現状分析の機会を作り、事業計画策定への啓発を促す。策定支援と併せて、実現可能性の高い事業計画を選定し、持続化補助金等の申請等、国の施策利用につなげていく。	事業計画策定件数	20	20	20	20	20	86	83	75			<p>主に小規模事業者持続化補助金の公募(年4回)や、創業支援補助金(伊丹市)で策定件数は大幅達成で推移。 また、伴走型小規模事業者支援推進事業を実施。「With ポストコロナを乗り越える経営改善プログラム」と題し中小企業診断士による個別相談会を延41回実施。集合研修を交えながら効果的に実施。経営支援システムBIZミルを用いて9者が事業計画を策定。</p>
4. 事業計画策定後の実施支援に関すること	事業計画を策定した全ての事業者を対象とし、1年に2回、事業計画に基づき事業遂行状況のヒアリングを行う。 計画の進捗状況や事業者のニーズに応じて経営指導員がよろず支援拠点並びにミラサポの専門家派遣を利用しながら、計画実施の支援を行う。	フォローアップ事業者数	20	20	20	20	20	33	45	54			事業環境変化対応型支援事業(日本商工会議所委託事業、兵庫県補助事業)又中小企業119の専門家派遣を通じて相談者の課題解決、事業計画の実施を支援。

事業名	概要	項目	目標値					実績値					成果・改善事項
			R2	R3	R4	R5	R6	R2	R3	R4	R5	R6	
5. 需要動向調査に関すること	伊丹まちなかバルの中でお酒の嗜好等に関するアンケートを実施する。	「伊丹まちなかバル」アンケート結果配布数	150	150	150	150	150	0	0	0			本年度は調整が間に合わず未実施となりました。次年度につきましては余裕をもって調整、実施致します。
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること	①「日本百貨店しよくひんかん」で行われる「地域うまいもんマルシェ」への出展を支援。 ②阪神地域四商工会議所ビジネス大交流会のマッチング支援。 ③ザ・ビジネスモールの機能の周知と利用支援。	① 地域うまいもんマルシェ販売個数 ② 阪神地域四商工会議所ビジネス大交流会商談件数 ③ ザ・ビジネスモール商談成約件数	150	150	150	150	150	171	163	395			①8/21～8/27、2/21～2/27に伊丹の酒並びに酒に関する商品を揃え地域うまいもんマルシェへ出店。R2/6/19日本遺産に認定された『「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷』をPRしながら、清酒をはじめとする伊丹の物産品を販売した。 ②阪神地域四商工会議所ビジネス大交流会を3年ぶり開催。小規模事業者のビジネスマッチングを支援。 ③ザ・ビジネスモールについて事業者向け研修会を1/27実施。会報等でも継続的にザ・ビジネスモールの仕組みについて継続的に周知した結果、成約件数は未達の結果だが、提案見積数18、商談開始数は9と前年比大幅に増加。
7. 地域経済の活性化に資する取組に関すること	伊丹市中心市街地活性化協議会への参加、伊丹まちなかバルでの個店支援、いたみ緑化フェアでの事業者の販路開拓支援を通じて地域経済の活性化へ繋げる。	①「伊丹市中心市街地活性化協議会」の開催 ② 中心市街地の飲食店イベント「伊丹まちなかバル」を通じての個店支援 ③ 伊丹物産品、園芸品の販売支援	①伊丹市中心市街地活性化協議会 総会6/21開催。当協議会の事務局を担当。三軒寺前広場を中心に「イタミ朝マルシェ」「伊丹クリスマスマーケット」「ITAMIまちにわフリマ」「いたみ冬の元気まつり」「伊丹グルメトリップ」を開催。新たな取組として公共空間を使った社会実験と空き店舗の有効活用を目的としたエリアマネジメント部会を設立。 ②3年ぶり伊丹まちなかバル10/22開催、72の飲食店が参加。バル参加店募集や当日の運営に関わる他、バルチケットの配布や回収の巡回時に当日運営について助言。 ③いたみ緑化フェア開催中止の為、未実施。										
8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること	市内金融機関との勉強会を企画し、伊丹市の商工業者に対する施策(制度融資・特定創業支援事業等)や伊丹商工会議所の支援メニュー(補助金申請支援等)の紹介をメインに、双方向の情報交換を促すような勉強会を企画、開催する。	伊丹市・伊丹商工会議所共催による外部支援機関等との勉強会開催	8/19 伊丹市内の金融機関を対象に中小企業振興融資制度等勉強会を開催、10名が参加。伊丹市都市活力部産業振興室 商工労働課の担当者より振興融資制度をはじめ、これから実施する商業振興施策等(設備等導入補助金・まるごと伊丹レントであたるカモキャンペン他)について説明。										
9. 経営指導員等の資質向上等に関すること	①BIZミルへのデータ入力を適時・適切に行い、支援中の小規模事業者の状況等を職員全員が相互共有できるようにする。 ②現状の事業者支援状況の定期的な報告会(月1回、年間12回)を開催。 ③経営指導員として必須である経営分析・販路開拓・生産性向上等の伴走型支援に必要な能力を習得し、指導力の向上に努める。 ④伊丹市立産業振興センターが実施するセミナーの受講。	① データベース化による情報共有 ② 職員間の定期ミーティングの開催 ③ 中小企業基盤整備機構(中小企業大学校)の研修会への参加 ④ 伊丹市立産業振興センター主催のセミナーへの参加	①BIZミルへの入力推奨し、決算データや支援履歴等の情報、並びに支援履歴、事業計画書を共有。 ②計画通りの事業者支援に関する定期報告会はできていない。本年度の伴走型支援事業実施に伴い改めて実施。 ③3名が中小企業基盤整備機構の研修会へ参加。 ④経営指導員各々の課題に応じて受講、今後も継続。										
10. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること	これまで通り年1回報告会を実施し、報告の際は従来の件数等の定量面だけでなく、実際の支援事例なども踏まえながらの報告会とする。	6/7経営発達支援事業推進委員会開催。 「3. 事業計画策定支援に関すること」、「4. 事業計画策定後の実施支援に関すること」の発表の中で実際の支援事例(既存事業者1件、創業支援先1件)を報告。 <委員からのご意見・ご質問> Q. インボイス制度に対する市内の業者の対応状況、DXへの取組支援状況はどうか？ A. セミナー等を開催しているが、まだまだ事業者の対応は追いついていないと感じている。 また、インボイスに伴うDX対応も問い合わせ自体が少ない。今後も制度や施策の周知活動を継続実施していく。 Q. 年4回実施の景気動向調査について発表のサイクルを早める事はできないか？また毎回追加の設問について計画はしているか？ A. 誌面作成都合上、サイクルを早めることは難しいが、お問い合わせがあれば委員の皆様方には個別に対応させて頂く。設問については時勢に基づき設定。ご要望等があれば対応させて頂く。 Q. 事業計画策定・実施支援した先の効果について商工会議所で統計をとり発信してはどうか。 A. 現状は補助金計画に関わる経営分析、事業計画策定相談で手一杯で、その効果について全ては把握できていない。何か代替りの指標で訴求できないか検討。											